

月例会のお知らせ

主題: Significant weather の解析と予報

会期: 2月11日(金)10時より

会場: 東京航空地方気象台6階会議室

1. 草野和夫・鈴木義男・武井久徳(東航): 東京国際空港における低層ウインドシャワーについて
2. 柴田 宣(東航): 主として下層の乱気流
3. 橋場善也(東航): 本邦付近における高高度乱れの特性
4. 山本芳政(東航): 富士山レーダーの管制気象業務への利用について
5. 中山 章(東航): 対流雲予報はどこまで可能か
6. その他

1965年の気象庁ニュースから

北陸豪雪観測を実施

気象研究所では、3度目の北陸豪雪観測(39年12月～40年1月の27日間)を実施。今回から航空機も使用、広範囲な観測網を敷いた。

富士山頂気象レーダーが正式運用

富士山頂気象レーダーの完成記念式典を、3月10日、本庁講堂で挙行、14時08分、正式運用を開始した。

予報中枢間専用電話が開通

本庁、札幌(10/1開通)、仙台、大阪、福岡間の予報中枢間専用電話が、3月16日から開通した。

気象ロケット、初の超高層を観測

気象用ロケット MT-135 の第5、6号機は鹿児島県内之浦で60キロまでの超高層の気温、風の観測に成功

長官の更迭

3月31日付で、畠山長官が退任、柴田海洋気象部長が新長官(3代目)に就任した。

半球放送(JMI)を開始

国際協力業務の一環として、半球放送が5月1日00Zから開始された。

国際雲物理学会議開催

1965年国際雲物理学会議は5月24日から6月2日まで17か国が参加して東京と札幌で開かれた。

「ひずみ地震計」が完成

従来の振子を用いないで、2点間の距離の変化を直接測定しようという「ひずみ地震計」が完成。松代に設置された。

黒潮協同調査はじまる

黒潮全海流系を含むニューギニアから日本までの西部北太平洋海域での黒潮協同調査は、9か国が参加し、6月から、向う数年間実施を目標に開始された。

福井気象レーダー、試験観測を開始

東尋坊の標高80メートルの地点に建設された福井の気象レーダーは、5月から試験観測を開始した。

凌風丸代船の建造計画きまる

老朽化した凌風丸の代船として、建造費約6億円、1500トンの建造計画が、6月11日にきまった。

世界標準地震計 No 89 が作動開始

世界125か所に設置された、世界標準地震計のNo.89が松代に設けられ、8月1日から作動開始。

音単回線のテレタイプ化

長い間使われている音単回線をテレタイプ化することになり、まず、東京管区の1系が8月2日から開通。

松代町付近に小地震がひん発

8月初旬から長野県松代町周辺で小地震がひん発はじめる。一度減少したが、9月に入って再び活動、今後の動きが注目され、本庁では監視体制を強化した。

マリアナ水域の遭難を契機に海上観測等を強化

台風29号のため、10月6日7日にかけてマリアナ水域で漁船が大量遭難した。これを契機に、気象庁では当面の対策として、漁業気象業務、模写放送の強化、気象観測船の強化などについて、41年度予算の追加要求を行なった。

第4回の測器観測法委員会(CIMO)開催

WMOの第4回測器観測法委員会は、10月4日から20日まで東京で開催。25か国、62名が参加した。

鳥島の気象観測、一時中止

鳥島火山爆発のおそれから、11月15日24時をもって、一時観測を打ち切り、全員引き揚げた。

南極観測隊が出発

再開第1陣の南極観測隊は、11月20日観測船ふじで出発した。気象庁からは清野隊員ら4名が乗船、また自動化された新測器も搭載した。

(気象庁ニュースから転載)